

令和4年度 長野地域「地域発 元気づくり支援金」実施事業 検証一覧表

番号	事業名	事業主体	事業内容 (①ソフト事業、②ハード事業)	総事業費 (千円)	支援金 交付額 (千円)	講評
1 地域協働の推進に関する事業						
1	ながの地域まるごとキャンパス事業	地域まるごとキャンパス実行委員会	市民活動団体やCSR活動をする企業が提案する地域活動プログラムに、学生が継続的に参画し、地域の人たちと一緒に考え、主体性をもって取り組むことで、地域の人たちとの関係が深まり、地域に愛着を持つことでU・I・Jターンにつなげていく。 ①謝礼、委託料、印刷製本費、通信費等	916	617	地域で活動を行う様々な団体や企業と社会課題に関心を持つ学生をつなげ、若者が主体的に地域活動に取り組む機会を創出することで、郷土愛醸成や学びの深化、U・I・Jターンの推進等に大きく寄与した。その後、長野市の委託事業として継続されているため、発展的に更なる広がりのある取組につなげていくことを期待したい。
2	松川河川敷 東日本台風災害からの復興の推進	旭ヶ丘地域づくり推進プロジェクト	2年目事業。令和元年東日本台風災害により一部損壊した松川河川敷の「松川四季の道」の復興を図るべく、地域住民が一体となり清掃・草刈り作業等の原状回復や、小学校児童と協働した芝の植え付けや、自然勉強会を実施するほか、ボランティア活動を次世代に継承するための体制づくりのための備品及び備品管理専用倉庫を整備する。 ①散水機購入費、芝生張付費、ベンチ購入費、イベント開催費等 ②専用倉庫購入費	1,712	1,355	新型コロナウイルス感染症の影響によりウォーキングイベントは中止となったものの、地域住民のボランティアによる河川敷の整備や、児童への自然勉強会、世代間交流をしながらの芝貼り活動等を通じて、「松川 四季の道」や河川敷の復興を進めるとともに、住民の郷土愛醸成に寄与した。
3	農道協働整備事業	千曲市	農地の高度利用促進と住民と行政が共に手を携えたまちづくりを進めるため、行政が原材料、重機を手配し、住民が労力を提供し、道路の舗装を行う事業。 ②原材料費(生コン、ワイヤーメッシュ)、重機借上費	4,565	2,282	多数の住民が参加し、概ね予定通りに事業を実施しおり、住民参加によるまちづくりの意識高揚の効果があったものと考えられる。
4	地域のみちづくり支援事業	坂城町	町が原材料を支給し、地域住民が生活道路としても利用する農道・林道の整備を行う事業。 ②原材料費(生コン、砕石、ワイヤーメッシュ等)、重機借上料	1,487	743	林道網掛線の舗装工事を実施したが、地域住民等が協働し自ら施工することで地域コミュニティの強化や施工技術の継承が出来たと考えられる
5	よろずぶしん事業	小布施町	住民と行政が一体となった活力ある協働のまちづくりを進めるため、行政が原材料の支給、職員の派遣による技術的助言のもと、住民が道路、水路の整備を行う事業。 ②原材料費(グレーチング蓋)	2,929	1,453	地域住民自らが作業を行うことで、地域協働性の向上とコストの削減、住民と行政が一体となった安全で安心な活力あるまちづくりに寄与することができた。
6	おてんま支援事業	高山村	住民と行政が一体となった活力ある協働の村づくりを進めるため、行政が原材料の支給、職員の派遣による技術的助言のもと、住民が道路、水路の整備を行う事業。 ②原材料費(グレーチング蓋)	2,791	1,860	対象とする道路の変更等はあったものの、地区の要望に沿って村が資材の手配を行い、補修を要する箇所を整備する等、地域と行政の連携によって事業が行われていた。
7	住民主体のみち直し事業	信濃町	住民協働のみちづくりの推進と農業生産の向上のため、町の原材料支給と地元住民の労務提供により、町道を維持修繕する事業。 ②原材料費(砕石、生コン、U字溝蓋、グレーチング蓋)	1,503	1,000	町と地域住民が力を出し合い傷んだ道や水路の修復にあたることで、住民協働のみちづくりの推進が図られたと考えられる。
8	原材料支給事業	飯綱町	地域協働によるまちづくりを推進するため、町が原材料を支給し、地元住民が労務を提供して道路の維持補修工事などを行う事業。 ②原材料費(生コン)	5,128	3,000	13地区で延べ200名が参加しており、地域住民等が協働し自ら施工することで地域コミュニティの強化が促進されたと考えられる。
9	飯綱町課題解決型アイデアキャンププロジェクト	飯綱町	将来を担う若者に魅力ある地域を創出するために、飯綱町に居住する若者に対し直接参加を促し「課題解決型アイデアキャンププロジェクト」を実施する。ワークショップ等を通じて町の魅力と課題の整理を行い、課題解決に向けたオリジナルプロジェクトを実施する。 ①委託費	1,698	1,358	意欲ある若者が主体となって地域課題に取り組むことで、今まであまり関りがなかった地域の活動に関わる機会が創出されたと考えられる。
10	みんなで道こせ事業	小川村	公民協働のみちづくりの推進と、住民生活の利便性向上のため、行政の資材提供と住民の労務提供により道路の整備を行う事業。 ②原材料費(生コン、鉄鋼)	2,334	1,360	2地区で延べ62名が参加しており、地域住民等が協働し自ら施工することで地域コミュニティの強化が促進されたと考えられる
2 保健、医療及び福祉の充実にに関する事業						
11	北信地域における里親委託等推進事業	長野県里親支援専門相談員北信地区連絡会	2年目事業。里親制度への理解を深めることを目的に、里親カフェや各種研修会を開催し新規里親の開拓を図る。令和4年度はオンラインの整備を行い、会場に来られない方も受講可能な環境整備を行う。また、昨年度制作した里親制度の広報動画を里親カフェや各種研修会で放映するなど里親制度について広く効果的に発信を図る。 ①講師謝金、広告費、備品購入費	410	328	参加者を引き付ける企画を盛り込んだ里親カフェや、オンラインやDVDの活用などを通じて、地域住民や各団体等が制度について学ぶ機会を創出し、制度を知らなかった地域住民の認知向上や当事者間の連携強化に寄与した。今後も継続的な取組に期待したい。
12	生鮮&冷凍フードロス削減とフードパントリー活性化	信州こども食堂印SDGsプロジェクト	2年目事業。食材提供者と食材支援が必要な個人や子ども食堂取組団体等が活用できる「冷凍コンテナ及び冷蔵コンテナ」を設置することで、生鮮食品の受け入れと提供を行うフードドライブ&フードパントリーを実施し、地域の助け合い促進とフードロスの軽減を促進する。 ①コンテナレンタル費、広告費	5,714	4,410	冷凍食品を受け入れ可能な大型冷凍コンテナの設置により、他地域で受け入れができない食品を受け入れることが可能となり、フードドライブの開催やフードロス削減に貢献した。長野地域の子ども食堂活動の活性化及び発展に寄与したといえる。引き続き活動していく上で、関係者との調整に課題があり、対応が必要である。
3 教育及び文化の振興に関する事業						
13	伝統芸能こどもフェスティバル	伝統芸能こどもフェスティバル実行委員会	3年目事業。ジャンルを超えた幅広い伝統芸能継承団体が一同に会し、子どもたちによる発表、展示、体験、指導を行う事業。子どもたちによる日本舞踊、琴、三味線、民謡などのステージは、事前に公募し発表まで練習を重ねることで後継者としての定着を図るとともに、茶道、剣詩舞、香道、陶芸などの当日参加の体験イベントを開催し、通年にわたり実行委員会のメンバーで個別に学校を訪問することで、伝統芸能に対する興味関心を高める取組もあわせて行う。 ①会場設営費、印刷費、広告宣伝費、会場使用料	3,569	2,602	子どもたちが伝統芸能や芸術文化を自ら体験し発表の場に立つことで、子どもたちやその家族、地域住民らに伝統芸能の素晴らしさを広く伝えようとするとともに、各団体における今後の人材育成や継承・発展にもつながると考えられる。
14	日本一の門前町大緑日	日本一の門前町大緑日実行委員会	3年目事業。善光寺御開帳にあわせ、市民参加による文化芸術プログラムを中心に、災害からの復興及び街の賑わいの創出を図ることを目的に「伝統芸能体験広場」の開催や、善光寺表参道に懐かしの名車、旧車を展示する「懐かしの名車、旧車の集い」、長野地域の高校生による書道パフォーマンス「ながの書道パフォーマンス」、「eスポーツの祭典2022 in NAGANO」などのイベントを行う。 ①会場設営費、運営委託費、印刷等	7,226	5,000	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、善光寺御開帳に向けて市民参加によるイベントの開催を実施することで、各メディア等にも取り上げられるなど、街のにぎわい創出や御開帳に向けた機運醸成に大きく寄与したと考えられる。
15	信州郷土食フェア&表参道芸術音楽祭	長野市	善光寺御開帳に県内外から訪れる多くの観光客に、長野県内に伝わる伝統食を文化芸術ステージ発表と併せて満喫してもらおうとともに、郷土食をPRする最大のチャンスと捉え、県内市町村の協力を得て郷土食の紹介と販売を行う。県民による文化芸術のステージ発表を行うことで県内の文化芸術の披露と振興を図るもの。 ①会場設営・運営費、会場演出・管理費、出演者調整費、広告費	2,420	1,193	善光寺御開帳にあわせて、参加48団体及び県内11市町村の協力のもと信州の郷土食と文化芸術ステージを同時に開催したことで、文化芸術の振興や街のにぎわい創出に大きく寄与したと考えられる。
16	ながの高校生バンドコンテスト	長野市	高校生のバンド活動の推進とエネルギーあふれる演奏により市民に感動を与えることを目的として、軽音楽バンドコンテストを実施する。バンド活動の推進と発表の場を創出し、長野市芸術館を高校生の聖地にすることを目指すもの。 ①会場運営・設営費、広報費、コンテスト費、会場費	1,161	795	市内でバンド活動を行う高校生らが向上心を持って練習に取り組み、コンテストで演奏を行うことにより地域活性化や文化芸術の振興に寄与したと考えられる。
17	真田サミットin松代	長野市	真田信之が松代入部400年にあたる節目に、真田家の藩政を学び、郷土の愛着と誇りを高め、その魅力を広く国内外に発信することで、地域の活性化と魅力あふれる持続可能な新たな「城下町松代」に繋げることを目的に、真田サミットin松代を開催する。地元小中学生が地域ボランティア等と、約半年間、総合的な学習の時間において、真田家や松代藩について学習し成果を発表する。また、藩主の末裔をパネリストとして迎え、座談会等を行う。 ①業務委託料	4,410	3,360	地元生徒児童を巻き込み、地元の歴史・文化に対する理解を深化を実現したほか、地域にとどまらず他県との連携の機運を醸成するなど、この地域ならではの取組となった。今後も息の長い取組が望まれる。

令和4年度 長野地域「地域発 元気づくり支援金」実施事業 検証一覧表

番号	事業名	事業主体	事業内容 (①ソフト事業、②ハード事業)	総事業費 (千円)	支援金 交付額 (千円)	講評
18	ベトナム人(外国人)が信濃に溶け込む“やさしなの事業”	長野県ベトナム交流協会	地域に在留するベトナム人をはじめとする外国人と地域住民が交流できる「街角バル」を開催することで、外国人を受け入れる地域づくりを推進するとともに、共生社会の実現につなげる事業。「街角バル」では、日本語教室の他、青年会議所考案の企画や防災に関する出前講座の実施なども行い、国籍に関係なく楽しみながら、学びに繋がるイベントを開催し、地域活性化を図る。 ①会場使用料、講師謝金、広告宣伝費	753	603	月に2回程度の「にほんご教室」の開催により取組が広がり、地域における異文化理解が深まったと考えられる。開催回数を重ねるにつれて、徐々にネットワークの広がりも見られた。
19	文化施設が作る「リトルプレス」(小冊子)による地域間交流及び魅力発信事業	一般財団法人長野市文化芸術振興財団	4年目事業。地域の優れた文化芸術やヒト(人)・コト(事)・マチ(町)を、地域の資源として戦略的に活用し、地域の魅力として情報発信するリトルプレス(小冊子)を、芸術館のスタッフと地域の方が共に企画、編集、作成し、発行する事業。今年度は、実際に出演するアーティストへのインタビューや街歩き取材などを地域の大学生と協働する取組も実施。また、広く地域の文化芸術に関わる資源、魅力を収集・発信するため、長野地域と隣接の上田市交流文化芸術センター(サントミュージーゼ)と連携し、各市の市民と共に文化芸術に関わる優れた地域情報を、地域間を横断する形で共同掲載し発信する。 ①冊子デザイン・印刷費、謝金、PCR検査料等	2,294	1,720	計画通りに実施されており、当初予定していた効果が得られていると考えられる。
20	地域の史資料収集及び電子化による知的情報の蓄積と継承事業	篠ノ井歴史の会	地域の史料や文献をデジタル化し、誰でも活用できるようにする「デジタル図書館」を開館し、地域における学びと交流の場にするるとともに、住民の郷土への関心・愛着醸成を図る。実施に当たっては会員や地域住民の協働で、史料を検索機能と正確性を有するデジタル知的財産化を行い地域の活性化につなげるとともに、積極的に子どもたちへの出前講座等を実施し、郷土の歴史を次世代へ継承する。 ①備品購入費、デジタル史料制作費	1,481	1,184	住民自治協議会等と連携しながら、活動拠点としてのデジタル図書館を整備し地元史料の収集、整理、デジタル化を進めるとともに、整理したデジタル資料を出前講座や現地学習会等において活用することで、地域愛着の醸成に大きく寄与したと考えられる。
21	信州くだもの歴史のまち川中島平ウォーク2022	特定非営利活動法人 MH OKエムホック	3年目事業。ウォーキングを楽しみながら健康な体づくりを行うとともに、地域住民や子供たちに地域の歴史や文化等を学ぶことのできるウォーキング大会を春と秋に開催する事業。 ①印刷費、救急救護員謝金、備品購入費等	478	310	新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの延期や縮小等の計画変更はあったものの、柔軟に対応しながら3回のウォーキングを開催し、地域活性化につなげることができたと考えられる。
22	姉妹都市文化交流事業「第60回記念須坂市民文化祭」	須坂市文化芸術協会	姉妹都市との交流を通じて各文化芸術団体の更なる発展や、これまで関心なかった市民に文化芸術を顧みる機会を創出するために、姉妹都市文化交流事業を開催する。また、イベント開催前後において地域住民を対象とした文化講座や子どもわくわくフェスティバルを実施し、文化芸術の振興を行う。 ①印刷費、会場設営費、広告費、出演料、交通費等	2,393	1,442	市民文化祭をきっかけに、姉妹都市との文化交流を行いながら親睦を深め、須坂市の文化振興と関係人口の増加につながった。
23	坂城能楽伝承普及事業	坂城びんぐしの里新能実行委員会	江戸時代より続いている町の伝統芸能である能楽を普及継承していくために、「びんぐしの里新能」を開催し、能楽師の披露する本物の能楽を鑑賞することで、能楽への興味関心を高めるとともに、長年稽古してきた子どもたちの発表の機会を創出し、能楽を学ぶ若い層の発掘や後継者の育成を図る。 ①出演料、部隊設営費、印刷費、交通整理費、バス借上費	4,319	2,293	新型コロナウイルス感染症の影響がありながらも、地域住民の参加によるイベントを実施し、地域住民の交流や連帯感の醸成が促されたと考えられる。また、伝統芸能に地域住民が関わることで、若い担い手の確保の一助とすることができたと考えられる。
24	持続可能な暮らしと住まいを学び、つくる場の創出	子どもたちと未来を考える会	3年目事業。子どもたちの自発的な学びの場をつくるために小布施町図書館と連携し、ゼロカーボンテーマとした講座の開催や太陽光発電システムの製作体験を通じて、ゼロカーボン社会への意識向上と参加者同士世代を超えた交流を図る。 ①講師謝金、チラシ印刷費、交通費、会場使用料等	698	541	多角的な視点から、2050ゼロカーボンを学ぶ取組を通じて、持続可能な暮らしと住まいについて学ぶ機会となった。昨年は新型コロナウイルスの影響により、計画内容の一部が実施できなかったが、今年度はその経験を踏まえ、概ね計画どおりに実施ができた。
25	のじりっ子トライアスロンフェスタ	のじりっ子トライアスロンフェスタ実行委員会	信濃町では30年以上前から野尻湖トライアスロン大会が開催されてきたが、競技人口が減少する中で、2028年の長野国体に向けてトライアスロンの普及や選手育成を図るために、技術講習会や体験教室、アクアスロンフェスティバルを実施する事業。 ①運営費、委託費、会場使用料、講師謝金、印刷費	2,295	1,594	新型コロナウイルス感染症の影響により当初見込みより参加者は少なくなったが、講習会やアクアスロン大会については予定通り開催し、地域の活性化や交流人口の増に寄与した。
26	ラーニングプロジェクト事業	飯綱町	飯綱町の歴史や文化について紹介する「まんが飯綱今昔物語(後編)」を作成し、このテキストを活用して、地域住民や地元の小中学生等が飯綱町の伝承や伝説などを学ぶ学習会や読み聞かせ(ラーニング)を実施し、小中学生等がふるさとを大切にすることを育るとともに読み聞かせを行うボランティア団体の人材育成を図る事業。 ①印刷製本費、講師謝金等	1,763	1,408	コロナ禍において出前講座は計画どおりの回数を開催できなかったものの、開催方法を工夫するなど概ね当初の計画どおりの事業効果をあげた。今後も単行本を活用したラーニングを継続的に実施し、ふるさとへの愛着やボランティア団体の育成につなげていくことが期待される。
27	飯綱のヒーロー、飯綱三郎天狗とともに和太鼓で元気を届けよう	飯綱権現太鼓	飯綱町の文化的象徴である「飯綱三郎天狗」を中心に、地域を知り、地域を元気にすることを目的として、演奏会等のイベント開催、紙芝居の制作・読み聞かせを行うとともに、動画やホームページ制作による情報発信等を行う。 ①作曲委託費、紙芝居制作費、動画撮影・編集費、ホームページ制作費等	457	365	和太鼓楽曲の制作や、ホームページ等を整備し、飯綱権現太鼓としての活動を充実させる土台となった。今後は、今回整備したものを活用し、より活動を活発とすることが期待される。活動を通じて、地域の活性化や愛着・誇りの醸成に寄与すると考えられる。
4 安全・安心な地域づくりに関する事業						
28	みんなで、「かもしれない運転・歩行」!!	長野市交通安全推進会議	広い世代に向けて交通意識の向上を呼び掛け、交通事故の抑制を図るため、長野市交通安全推進マスコット「カモシレ」を用いた効果的で親しみやすい啓発活動を実施する。「カモシレ」の着ぐるみを制作し、様々なイベントで、危険予測を取り入れた「かもしれない運転・歩行」を周知するほか、併せてチラシを啓発配布し、市民の安心安全な生活の確保につなげる。 ①チラシ制作費	659	441	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、善光寺御開帳に向けて市民参加によるイベントの開催を実施することで、各メディア等にも取り上げられるなど、街のにぎわい創出や御開帳に向けた機運醸成に大きく寄与したと考えられる。
29	須坂市明徳町「次世代を創り未来へ歩む地域づくり」事業	須坂市明徳町(50周年実行委員会)	明徳町が50周年を迎えるにあたり、地域全体でこれからの明徳町のまちづくりを考えるイベントを開催する。教育評論家の尾木直樹先生を講師に迎え、町づくりをテーマに講演会を開催するのほか、20年前に埋めたタイムカプセルの掘出し、新たなタイムカプセルの埋設や子どもたちの意見交換会を開催し、子供たちが未来の町を考えるきっかけを作り、今後の町づくりに生かして行くもの。 ①講演料、会場費等	925	636	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、地域住民の参加によるイベントの開催を実施し、地域住民の交流と交流人口の増加につなげていると考えられる。
30	学生連携による被災地復興支援と地域防災事業	特定非営利活動法人 災害共生支援機構 from	2年目事業。町内外の学生に向けて復興支援活動を行う学生ボランティアを募集し、被災写真の洗浄活動や意見交流会を開催するとともに、学生防災リーダー養成講座を開催し、学生や若者が防災支援や防災に関する知識を深め、地域防災を担う人材を育成する事業。 ①備品購入費、講師謝金、印刷費、施設利用料等	998	798	ボランティアと協働して被災写真の洗浄を行うとともに、地域住民が楽しみながら学べる防災講習を実施することで、地域防災力の向上につながったと考えられる。
5 環境保全及び景観形成に関する事業						
31	ゼロカーボン長野プログラム2022	特定非営利活動法人 CO2バンク推進機構	2年目事業。昨年度に引き続き、長野駅善光寺口駅前広場に地域ボランティアとともに緑化スペースを設けて社会実験に取り組みグリーンインフラ体験活動や、エムウェーブで開催される大規模なゼロカーボンイベントにあわせて新たに「グリーンインフラフォーラム(オンライン)」を開催し、地域住民や団体がゼロカーボンの考え方を知り、楽しみながら実践する場を設けることでゼロカーボンの普及啓発を推進する事業。 ①植栽スペース設置委託費、シンポジウム開催費、印刷費、広告宣伝費	4,875	3,900	ゼロカーボンについての様々な取組を、効果的に普及できるような諸団体と連携し、工夫をしながら実施していた。善光寺御開帳と合わせた駅前広場での「グリーンインフラ体験」は、緑化スペースを憩いの場として楽しんでもらいながら、石畳と芝生の温度を比較する実証実験で涼しさを体感してもらおう等、多くの方々に興味を持ってもらえる取組となった。その他にも、支援金を使わないで実施する多くのパネル展示や、子ども向けのリサイクルラボから知見者がディスカッションするシンポジウムの開催まで、幅広い世代、また幅広いレベル感に対して広く普及を行い、長野市内におけるゼロカーボンの取組の普及に寄与したといえる。
32	長野みらい環境フェス～チャレンジ・ゼロカーボン～!長野の四季を守ろう～	公益財団法人長野青年会議所	2050ゼロカーボンを実現するために、事業者や消費者の意識改革及び行動変容をうながすためのイベントを開催し、環境問題の現状把握、環境問題解決に向けた製品やサービス、取組みを知り、消費行動や消費体験につなげる事業。 ①イベント開催費	2,441	1,953	地域全体を巻き込んだイベントを開催し、2050ゼロカーボンに向けた地域住民及び事業者等の環境問題に対する意識改革に寄与した。

令和4年度 長野地域「地域発 元気づくり支援金」実施事業 検証一覧表

番号	事業名	事業主体	事業内容 (①ソフト事業、②ハード事業)	総事業費 (千円)	支援金 交付額 (千円)	講評
33	姨捨の棚田農業体験交流とリモートワーク(観光以上移住未済)	名勝姨捨棚田倶楽部	2年目事業。平成29年度元気づくり支援金の活用により棚田近くの空き家を改装し、農業体験、移住体験交流の拠点として各種イベントを開催し、農業体験交流による棚田の維持及び移住希望者等との交流などを行っているが、コロナ終息後の再始動に向けて、リモートワークやワーケーションの受入に対応するため施設改良や備品購入を行う。 ①備品購入費 ②バイク購入費、物置整備費、建物改修費	3,140	2,363	コロナ禍におけるリモートワークへのニーズや、「姨捨の棚田」にマッチした施設整備を進めることで更なる魅力向上を図った。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、農業体験や交流事業を実施し、地域活性化や交流人口の増につなげることができたと思われる。
34	未利用有機資源を活用したバイオ炭の生産・利用の実証事業	小布施町	脱炭素のまちづくりに向け、輸送・焼却にかかる温室効果ガスの排出を削減するために、町内の果樹農家から排出される堆肥が難しい剪定枝・栗の皮・イガ等を炭化装置を用いてバイオ炭にし、利活用を進め、回収・炭化・活用の町内資源循環モデルの構築を図る。 ②炭化装置等設置費、機器調整費等	5,940	3,960	今後継続的に進めるためには、協力農家や近隣の自治体・事業者との協議が必要。
35	古海の里を知る、楽しむ、考える事業	美しい古海の里保全委員会	古海地域の愛着を醸成するため、小中学生や地域住民を中心にフィールドワークによるヒメグフチョウやホタル等の生息調査や気象調査等を行い、その成果を報告するシンポジウムを開催し、地域の特異性を理解するとともに、環境保全や地域資源、地域農業を守る気持ちを育てる事業。 ①チラシ作成費、昆虫捕獲ネット購入費、資料作成費等	383	300	地域住民が主体となり、動植物の生息調査やシンポジウムを通して古海地区の地域資源や特異性を確認することで、環境意識の向上や地域愛を育む取組となった。また、地域における課題が共有できたことで、来年度に向けた活動計画を策定するなど、継続的に取組体制が構築された。
36	小川村の古道・文化財整備およびeMTBによる体験型観光振興事業	特定非営利活動法人 美しい小川・絆のネットワーク	古道や文化財の整備及び案内看板設置を、村内外からのボランティアを募集し開催することで、整備の重要性や保全の必要性を再認識する。ウォーキングイベントは、整備した北アルプス青空散歩道で開催したが、村外からも多く参加した。また、eMTBレンタルバイクによる体験型観光を実施した。 ①草刈り機、チェーンソー購入費、登山道整備備品費、案内看板作成費用、HP作成費用 ②eMTB購入費	2,722	2,084	新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことやPR不足により、貸出数は少なかった。古道の整備には、積極的に取組んでおり、要所へ案内看板も設置し古道の再生に成功した。また、パンフレット製作は、古道の調査から取組み完成させた。今後は、古道のパンフレットやホームページ等を活用しレンタルバイクの活用に期待したい。
6 産業振興、雇用拡大に関する事業						
(1) 特色ある観光地づくり						
37	外国人旅行者向けの観光ルート開拓事業	善光寺表参道イルミネーション実行委員会	4年目事業。冬期間の観光誘客が課題となっている善光寺界隈・松代地区において、外国人旅行者を呼び込み、賑わいを創出することを目的に、既にインバウンドに成功している近隣自治体からの周遊ルートの開拓(モニターツアー、ファミトリップ等の実施)や、地域住民や観光関係団体に対するおもてなし講座の開催などを実施する事業。 ①モニターツアー委託費、印刷費、講師謝金、会場使用料等	1,363	1,090	一部の事業について参加者が予定より少なくなっていたり、新型コロナウイルス感染症の影響で事業が縮小したりしているものの、モニターバスツアーの実施や研修会の実施により今後の誘客に繋げることができたと考えられる。
38	eバイクを使った鬼無里観光まちづくり事業Ⅱ	鬼無里観光振興会	2年目事業。昨年度、鬼無里地域におけるeバイクを活用した観光誘客に着目し、「鬼女紅葉伝説ゆかりの地をめぐるコース」の選定や、レンタル用eバイク及びサイクルスタンドの整備を行った。今年度は配布用マップの制作や案内看板の整備、女性・子供が乗りやすいサイズのeバイクの購入を行い、地域内外に広く発信することで観光誘客や地域活性化を図る事業。 ①運営委託費、備品・消耗品購入費、印刷製本費等 ②eバイク購入費、案内看板整備費	1,098	807	地域を巻き込んだ取組により鬼無里地区の新たな魅力発見につながった。隣接する戸隠地区も含めたコース設定を行うことで、広域的な観光が可能となった。ホームページでの周知や地元新聞へ掲載されたことで利用者が徐々に増加してきているが、より一層の利用促進が必要。
39	臥竜公園一帯を活用したアウトドアイベントによる防災・観光等の複合的事業	アウトドアライフスタイル推進協議会	3年目事業。臥竜公園百々川緑地を会場に、防災キャンプやアクティビティ、フリーマーケット等、それぞれテーマごとのゾーンを設け、市内外の来場者・出店者が様々な形で交流するイベントを開催し、台風時などの災害時への対応や、環境問題などの課題に対し、アウトドアを通じた取組を行う事業。今年度は公民館と連携し、「SDGsアップサイクル」として市民が制作した避難時に役立つグッズ等の販売もあわせて行う。また、須坂アウトドアマップを作成し、アウトドアの観点から須坂の楽しみ方のPRを行う。 ①イベント運営委託費、印刷製本費、WEBサイト構築費等	5,999	4,799	小学校での防災キャンプや臥竜公園百々川緑地での大規模イベント、市内の様々な店舗やスポットを盛り込んだアウトドアマップの制作等、須坂市民に広く波及できる取組を実施し、地域活性化や地域防災力の向上につなげることができたと考えられる。
40	地域密着型交通システム(シェアサイクル)の構築支援事業Ⅱ	千曲市	2年目事業。観光客及び地域住民の新たな交通手段、また脱炭素地域づくりを進めるツールとして「シェアサイクル」に着目し、市内の11拠所に電動アシスト付きシェアサイクル45台を設置して効果を検証する社会実験を行う事業。また、利用者の周遊を促す仕組みづくりとして「立ち寄りスポット」等を掲載したリーフレットも作成する。上田市でも同様の社会実験を行い、地域を跨いだ広域観光や広域周遊の可能性を検証する。 ①環境整備費、運営委託料、広告宣伝費、保守管理費	3,888	2,617	二次交通としての新たなツールとしてのシェアサイクルの活用のための取組となった。太陽光パネルを利用した充電システムを導入するなどゼロカーボンへの意識向上の取組も独自に行うとともに、上田市と共同での広域的な取組により、プラチナ大賞優秀賞を受賞するなど波及効果があった。本格導入に向けて利用促進等今後の取組に期待したい。
41	トキタビプロジェクト	一般社団法人信州千曲観光局	昭和レトロな雰囲気が残る戸倉上山田温泉を中心に、地域の観光資源を統一のコンセプト「トキタビ」により事業展開することで、広域的な観光プロモーションを行う事業。同学園の学生がデザインしたロゴデザインを作成し、各宿泊施設や観光スポット等で観光客に貸出すほか、ロゴ入りの温泉みくじや手ぬぐいを作成し、観光会館や温泉街の旅館、飲食店等で販売するなど、市内観光の一体感を創出することで観光誘客及び地域観光の活性化を図る。 ①消耗品費(提灯、温泉おみくじ、手ぬぐい、ステッカー)、委託費	4,279	3,413	先進事例の紹介など、県の持つ情報提供等を通じた側面的支援が必要である。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、ロゴを使った提灯を活用したイベントの開催、観光パンフレットやホームページへの掲載など露出する機会を増やし観光誘客に力を入れた。一方で動画やステッカーの制作に時間がかかり、事業期間内の活用機会が少なかった。今後も継続使用することで、さらなる観光誘客に繋がるよう期待したい。
42	住民参加型「小布施の魅力発見ツアー」造成事業	小布施文化観光協会	モノの消費をメインとした通過型観光から転換し、ローカルな魅力を紹介する体験コンテンツの造成を目指し、専門性を持った地域住民を講師として3種類のモニターツアーを開催することで、地域の魅力の発掘、発信を行い、地域の特徴を活かした観光客の集客と地域への愛着醸成を図る。 ①業務委託費、講師謝金、印刷費、写真撮影費等	1,119	860	地域の魅力を住民とともに発掘・発信し、町外からの来訪者にとって楽しめるコンテンツを造成する取組とはなったが、参加者が少なかったため、コロナ禍においても参加者を一定数以上確保できる仕組みの構築が必要である。
43	信濃町「Eチャリ」プロジェクト	一般社団法人信州しなの町観光協会	信濃町における観光の新たな切り口としてeバイクに着目し、eバイク等を購入するとともに、サイクリングコースの整備や情報発信、スマホを利用したスタンプラリー等を実施し、サイクルツーリズムの促進による観光誘客や地域活性化を図る事業。 ①備品購入費、マップ制作費、スタンプラリー企画費等 ②eバイク購入費	2,668	1,635	新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことから貸出数は目標に達しなかったが、サイクリングマップの制作によるPR効果やマップを活用したデジタルスタンプラリーを開催することで観光振興につながった。それに伴い電動クロスバイクの貸出しにも増え、もともと行っていたレンタルサイクルとあわせると、過去最高の利用者数となった。今後は、サイクリングマップをもとに町内観光をさらに拡大されることを期待したい。
(2) 農業の振興と農山村づくり						
44	ソルガムコンソーシアム事業(その2)	信州そるがむで地域を元気にする会	2年目事業。省力栽培、エネルギー化等、あらゆる可能性を持つ作物である「ソルガム」のさらなる研究、認知向上、発信を通して、ゼロカーボン社会の推進や地域活性化を図るため、産学官が連携するコンソーシアムを構築するとともに、ソルガムの栽培を推進するための農福連携モデルの構築、栽培講習会や商品化検討等を開催し、ソルガムの可能性を広く発信・普及に取り組みする事業。 ①講習会開催費、講師謝金、印刷費、報告会開催費等	1,762	1,320	新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、栽培講習会、研究やレシピ考案、動画の作成等、実施の方法を工夫しながら多角的な観点からソルガムの普及を進めた。長野地域においてソルガムの普及が進むことにより、地域全体におけるゼロカーボンの推進にも寄与したと考えられる。
45	りんご栽培技術継承動画制作事業	高山村	村の主要農産物であるりんご栽培の担い手育成及び確保を目指し、新規就農者や初心者向けにベテランりんご農家の栽培技術を解説した動画制作を行い、WEB配信やDVDの配布により技術継承と産地確立を図る。 ①動画制作委託費、講師謝金	4,259	3,407	動画編集が遅れたことにより、村内への期間が短く、年度内に十分な活用まで至ったとは言いがたいが、高山村の風土に合ったりんご栽培のノウハウや新規就農者目線に立ったきめ細かいアドバイスを盛り込んだ動画制作を行うことができた。
46	伝統野菜による地域振興事業	信濃町	信濃町の気候風土に沿った食文化とともに育んできた伝統野菜について、他地域の取組事例を知り、栽培体験や郷土料理教室を通して食文化等を学ぶことで、伝統野菜や農に対する理解を深め、認知度向上と普及を図る。 ①種代、講師謝金、借上料、委託費、印刷費等	423	317	栽培講習会や料理教室を通して、地域住民の伝統野菜への理解と関心を深めることができた。今後この伝統野菜を新たな地域資源として、観光・飲食業等と連携し利用拡大が図られることが期待される。
(3) 商業の振興						
47	信州須坂健康スミージーを通じたまちのにぎわいづくり2022	信州須坂健康スミージー推進協議会	3年目事業。スタンプラリー形式で健康スミージーの提供店舗を回るフェスの開催し、健康スミージーの認知度向上&販売促進イベントを開催する。また、「マタニティセミナー」の中でスミージーを取り入れたマタニティレシピを紹介し、妊婦を含む若者の健康意識の向上や食生活の改善を図る。 ①印刷製本費、広告費、講師謝金、会場使用料等	854	669	一部目標値に届いていない項目があったものの、全体として概ね目標以上の成果を上げており、市民の健康増進に効果があったと考えられる。

令和4年度 長野地域「地域発 元気づくり支援金」実施事業 検証一覧表

番号	事業名	事業主体	事業内容 (①ソフト事業、②ハード事業)	総事業費 (千円)	支援金 交付額 (千円)	講評
(4) その他地域の特徴及び個性を活かした産業振興並びに雇用拡大に資する事業						
48	北信エリア 地元産酒類のツーリズム資源化推進事業	北信エリア地元産酒類のツーリズム資源化推進実行委員会	4年目事業。北信濃の日本酒、酒蔵の魅力を県内外の幅広い世代に向けたPR活動に加え、善光寺御開帳の好機にあわせて実際に酒蔵を訪問してもらう機会を増やすため、地域の酒、食、観光や土産などについて一体的に紹介するリアル出店イベントを開催するとともに、「北ながの酒蔵OPENDAY」の動画配信により、新たなファンの獲得やアフターコロナの観光誘客及び地域活性化を促す事業。 ①YoutubeLIVE配信費用、イベント開催費、広告宣伝費、謝礼等	6,129	4,903	日本酒そのものだけでなく「食」との相性（ペアリング）を紹介する等内容の充実が図られ、さらに実際に日本酒を購入できる仕組みや若い世代をターゲットとした気軽に視聴できる動画配信等工夫が凝らされていた。
49	～故郷の風景を想う～「あんずで繋ぐ物語」事業	長野商工会議所	「日本一のおんずの里」である千曲市から苗木を里帰りさせた「里帰りあんず」の植樹や、松代の新たな特産品としてあんずを使った新商品開発を行うほか、千曲市と連携した「あんずマルシェ」やスタンプラリー等、話題性のある企画により、「あんずの里」としての認知度向上や景観形成、新たな観光需要の創出等、多角的に地域を盛り上げる。 ①苗木植樹費、イベント開催費、商品開発費等	1,660	1,208	あんずを中心に地域全体で植樹による景観形成やイベントの開催を実施することで、町の活性化や新たな観光需要の創出に向けた機運醸成に大きく寄与したと考えられる。
50	eバイクによる長野市中条の魅力開拓事業	eternal story株式会社	中条地域における観光の新たな切り口としてeバイクに着目し、地域住民との協働によるサイクリングコースの考案や、レンタル用eバイクの整備を行い、無料試乗イベントを開催するなど、地域内外に広く発信することで観光誘客や地域活性化を図る事業。 ①ヘルメット購入費、印刷費等 ②eバイク購入費	1,174	815	地域住民との協働によりモデルコースの作成やイベントの開催を行うことで、地域の魅力、名所を再認識するとともに、地域の連帯感が生まれた。また、魅力発信によりeバイクの予約が入るなど、観光誘客に繋がった。来年度以降魅力的なツアーを実施予定のため、eバイクの利用者や観光客の増加が期待される。
51	働く女性の活躍を軸とした移住・二拠点居住者の受け皿づくりと情報発信	私たちのつながりづくり実行委員会	長野地域への移住や関係人口を増やすことを目的として、女性の目線で長野地域の地域特性や魅力を伝えるフリーペーパーを作成し、地域内外へ発信する。また、交流会や講座を開催し情報交換を通してコミュニティづくりを行い、移住促進を図る。 ①オンライン広報費、フリーペーパー作成費、交流会等開催費等	5,095	3,247	女性が活躍できる社会づくりを目指し、働く世代、子育て世代の女性の移住等に特化したセミナー、交流会や情報発信を行い、コミュニティづくりや移住促進PRに繋がった。
52	地域創生型ゼロカーボンチャレンジ	戸倉上山田商工会	2年目事業。地域企業がゼロカーボンへの取組を進めるための講習会の開催や、昨年度までの取組について展示発表及び動画配信によるPR、自治体との連携による独自認証制度の導入など、地域貢献の発信を行うことで、企業価値の底上げと地域産業の活性化を図る。また、地域住民が電気の大切さや節電意識を高めるために発電装置の開発を行い、イベント等で活用する。 ①講師謝礼、印刷費、サイト制作費、動画制作費、会場使用料、発電装置製作費等	4,450	3,500	戸倉上山田商工会が動機づけを行い、各企業が取組み、さらに地域住民への波及により地域全体で二酸化炭素の排出抑制を目指す取組となっている。地域への意識付けは継続的な取組みが重要なことから、先進事例の情報提供等の側面的な支援が必要である。
7 その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業						
53	長野地域子ども元気プロジェクト事業(防災キャンプ)	長野広域連合	2年目事業。地域の子どもたちに令和元年東日本台風災害の記憶を風化させず、身近な地域で起こった災害を教訓にするため、防災キャンプ体験を開催し、防災学習や非常食の調理等の体験を通して、災害に備える意識を高める事業。 ①業務委託費	2,695	2,021	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも防災キャンプには約80名の親子に参加いただき、体験を通じた防災学習を行うことで地域防災力の向上に寄与したと考えられる。単発のイベントで終わらず、継続・発展させた形で事業に取り組み、次に生かしていくことが必要である。
54	365日大学 第3期	365日大学	3年目事業。フレイル予防やサキベジに関する学習会など各種講座や、会員による講座をオンラインで開催するほか、農業支援やグリーンツーリズム等シニアの生きがいづくりを推進する活動、脱炭素農業の推進や啓蒙セミナー等の脱炭素社会に向けた活動を実施。令和4年度は新たに、ブルーベリー農園による脱炭素農業の実践と地域活性化に取り組む。 ①会場使用料、講師謝金、チラシ作成費、広告宣伝費、苗木購入等	3,796	3,036	3年目の事業として、引き続きシニアの生きがいづくりを通じて地域を元気にする取組みを、耕作放棄地の解消や健康増進、脱炭素社会の推進を取り入れながら発展的に実施した。実施によりラジオ出演、各種メディアに取り上げられる等、地域への影響も大きいと考えられる。
55	中条移住お助け事業	特定非営利活動法人 中条地区住民自治協議会	地域の空き家を利用して、移住希望者からの相談・案内等を地域で行う新たな拠点「中条移住相談所」を開設し、交流人口の増加や地域活性化の推進を図る。また、移住希望者の対応のための地域の体制や情報発信について意見交換を行うワークショップや、「移住体験会」の開催、パンフレットの作成等も実施し、積極的に移住先としての魅力を発信していく。 ①講師謝金、パンフレット印刷費 等 ②ゲストハウス整備	1,698	1,277	新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント回数の減少などはあったものの、改修した施設を拠点として活用しながら移住推進事業を進め、年度内に9件の移住（空き家活用）を達成するなど、中条地区の移住・交流増の促進に寄与したと考えられる。
56	ワーケーションまちづくり事業2	株式会社ふろしきや	2年目事業。千曲市のワーケーションを推進するために、Maasを活用したワーケーション体験の利便性を向上させるシステムの拡張を、市内店舗や事業者と連携しながら行うとともに、システムを活用して誘客を図る「ワーケーションスペシャルデイズ」を開催する事業。千曲市がワーケーション先進地のスーパーシティーとなることを目指し、来訪者に地域の魅力をPRするとともに、観光誘客効果で地域経済の活性化を図る。 ①システム構築費、イベント開催費、広報宣伝費	9,948	4,935	昨年度に引き続きワーケーションウェルカムデイズを開催し、ワーケーションを中心とした交流により、新たな誘客に結び付くなど、一定の経済効果が得られた。ワーケーションイベントの開催やMaasを活用したモデル的な取組は話題性はあるが、実用化に向けては費用対効果等の課題がある。
57	“ひとづくり・まちづくり”In ちくま未来大学(仮称)	一般社団法人 ちくま未来戦略研究機構	4年目事業。令和元年度に整備した拠点をベースに、地域の未来戦略について毎回市内外からのゲストを招いた講演会やトークセッションを開催するほか、新たに学び直しのプラットフォームとなる「ちくま未来大学」を実施し、複数のキャリアを持つ働き方に対応した学習、デジタルスキルや郷土の学習等の様々な講座を実施する。また、ホームページを活用した街情報の提供やシティブロモーションを実施する。 ①会場使用料、講師謝金、チラシ印刷費、テキスト印刷費等	1,460	1,056	地域住民が主体となって地域人材を活用したまちづくり、ひとづくり事業に取り組んでいる。また、地域の課題に対し、独自のアプローチにより解決に向け取り組んでいることから、まちづくりへの関心の高まりや市民の主体的な参加を促すきっかけとなった。